

平成21年度

全国ライオンジャッジ・クリニック



**第58回黒鷲旗
全日本男女選抜バレーボール大会**

KUROWASHI 2009

**JVA 国内事業本部
審判規則委員会**

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

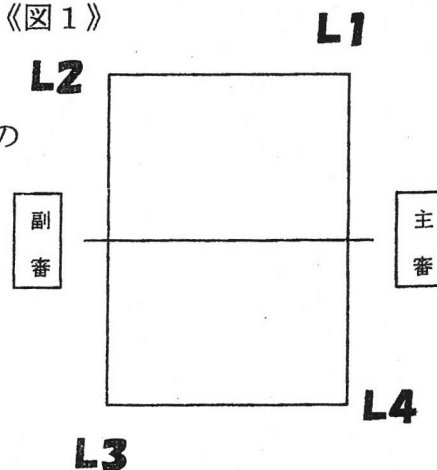
- (1) 試合開始1時間30分前までには、競技場に集合すること。 3 時間前
- (2) 競技場に集合したら、コート等の設営や試合に必要な用具等のチェックを積極的に協力すること。
- (3) 試合60分前にレフェリー・ミーティングが行われるので、主審、副審、記録員、ボール・リトリバー、モッパ―と綿密に打ち合わせを行うこと。
- (4) レフェリー・ミーティングには、審判服装で参加すること。胸には自分の公認された資格のワッペンを付けること。
- (5) レフェリー・ミーティングの前にラインジャッジは、誰がどのラインを担当するのか、また試合中のいろいろ起こるケースに対してどのような動き方をしたらいいのか、どのようにお互いに協力をしていくのかを事前に打ち合わせをしておくこと。特に、主審に見えにくい所や、アンテナ外通過、フライング・レシーブで床にボールが落ちたかどうか、ブロッカーやレシーバーのボール・コンタクトがあった際の出し方等をよく打ち合わせておくといよい。
- (6) フラッグの点検をする。(用具の準備)
- (7) 試合開始30分前には、記録席後方に集合すること。
- (8) 公式ウォーム・アップ中、担当ラインの延長線上で、目慣らしをするとよい。
- (9) 公式ウォーム・アップが終了したら、担当の位置につき、ネット・アンテナが正しい位置に取りつけているかどうかチェックする。特にアンテナの取り付け位置については、ゲーム中でも十分注意する。

2. 試合中

(1) ラインジャッジの位置

- ① 自分の担当するラインの想像延長線上でコートの各コーナーから2m離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリー・ゾーン内に立つ。エンド・ラインはライト・サイドのコーナーから、L2、L4が、サイド・ラインはレフト・サイドのコーナーから、L1、L3が統御する。(図1)

《図1》



- ② レフト・サイドからのサービスの時は、サーバーの妨害にならないように、サイド・ラインの延長線上、サーバーの後方に移動し位置する。その際、サーバーのフット・フォルトの有無に注意するため、横には開かない。

(2) ラインジャッジのフラッグ・シグナル

- ① 起きた反則を確実に判定し、速やかにフラッグ・シグナルを示す。主審は、そのシグナルを確認して最終判定を示す。
- ② フラッグのボールに人差し指を添えてボールを握り、ひじが曲がらないようにまっすぐにフラッグを出す。まず構えた姿勢でフラッグシグナルを示し、足をそろえて直立する。 出したら、スッと立つ
- ③ 姿勢については、アウト・オブ・プレー時は自然体でリラックスして立つ。また、サーバーがボールを打ってから、移動しやすい低い姿勢をとり、目の位置を下げ、身体（腰）でボールを追う。目の位置が高いとボールを上から見ることになり、ボールと床の接点が死角となり、ボールがラインにふれているか明瞭に判定できない。低い姿勢が必要なときとそうでないときの区別をつける。サーバーがエンド・ライン後方から打つ時は、サーバー側のエンド・ライン担当のライン・ジャッジは、低い姿勢をとる必要はない。
- ④ フラッグ・シグナル（ボール・イン、ボール・アウト、ボール・コンタクト、サーバーのフット・フォールト等）のみ使用し、それをしばらくの間続けなければならない。 アンラインシグナルは~~提示~~を示す
立て
- ⑤ フラッグ・シグナルを出す場合（ライン判定をしってから）、身体とフラッグはラインに向け、顔だけを主審の方に向けて目をあわせ判定を伝えることが、お互いの信頼関係を保つ上でも非常に大切である。

3. 試合後

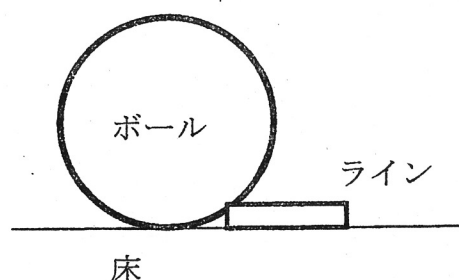
- (1) 試合が終了したら、記録席の後方に集合し、主審、副審、記録員と握手をする。
- (2) レフェリー・ルームで主審・副審からアドバイスを受けると良い。
- (3) 審判委員長より試合全体を通してのラインジャッジの任務についてアドバイスを受けること。
- (4) 最後にお互いにディスカッションをすること。

『ライン・ジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定(ボール・イン、ボール・アウト)

- (1) ボールがライン付近に落下した場合は、そのラインを担当するライン・ジャッジだけがシグナルを出す。(1人1線が原則で「ボール・イン」はライン2m以内とする)《下図2参照》。各コーナーのコートに落ちた場合は2人のラインジャッジがシグナルを出す。《下図3参照》
- (2) ボールがインか、アウトかボール・コンタクトかの判定は、速やかにシグナルを示さなければならないので、判定は躊躇してはいけない。シグナルが遅れると選手がアピールをする原因となる。
- (3) イン、アウトの判定は、最初はボールを見て、ボールが床近くに來たらボールから目を離し、ラインを見て判定をする。

《図2》『ボールと床の接点』

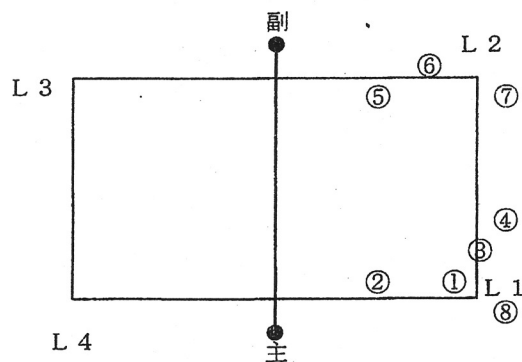


《図3》『コーナーのボール・イン、ボール・アウトの判定』

コーナーにおちた場合は、

五秒か判定、基本的に担当ライン

※担当ラインでなくても、一番近いラインが判定する



- | | |
|------|----------------------------|
| ボール① | L 1, L 2 が判定 (コーナー 2 m 以内) |
| ボール② | L 1 が判定 |
| ボール③ | L 2 が判定 |
| ボール④ | L 2 が判定 |
| ボール⑤ | L 3 が判定 |
| ボール⑥ | L 3 が判定 |
| ボール⑦ | L 2 が判定 |
| ボール⑧ | L 1, L 2 が判定 |

2. ボールコンタクトの判定

- (1) ボール・コンタクトを認めた場合は、フラッグを顔の前でやや高めに旗を立てて旗の先を別の手で触れる。スパイク・ボールがコート内に落ちた場合は、ボール・インのフラッグ・シグナルを出す。
- (2) ライン・ジャッジの任務の基本的考え方は、ライン判定である。またブロックにボール・コンタクトでコート外に出た場合は、確実に確認できたライン・ジャッジが、ボール・コンタクトのフラッグ・シグナルを示す。 max 4人

3. ボールが床に触れたかどうかの判定

- (1) パンケーキのプレーで、自コートにボールが床に触れたことが確認できた場合は、ライン・ジャッジが、シグナルを示す。
- (2) フラッグ・シグナルは、ボール・インのフラッグ・シグナルではなく、身体の斜め前で、2・3回床をたたくシグナルで示す。

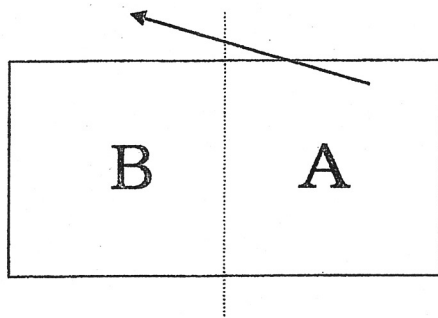
4. サーバーのフット・フォールの判定

- (1) サーブを打つ瞬間の足の位置、及びジャンプ・サーブなどで踏切る足の位置がサービス・ゾーン外やコート内であれば反則となる。その判定はエンド・ライン担当のライン・ジャッジが判定しサイド・ライン側であれば、サイド・ライン担当のライン・ジャッジが判定をする。
- (2) フラッグ・シグナルは、頭上で旗を左右に1往復振り、片方の手でラインを指す。

5. アンテナ付近を通過したボールの判定

(1) 許容空間外（アンテナの外側または上方）を通過した場合

① ボールがフリー・ゾーンやフリー・ゾーン外に落ちたとき。



a : チームの1回目・2回目の接触後の場合

主審：落ちた瞬間に吹笛をする。

副審：吹笛をしない。

ライン・ジャッジ：落ちた瞬間に「アウト」を示す

b : チームの3回目の接触後および9人制の場合

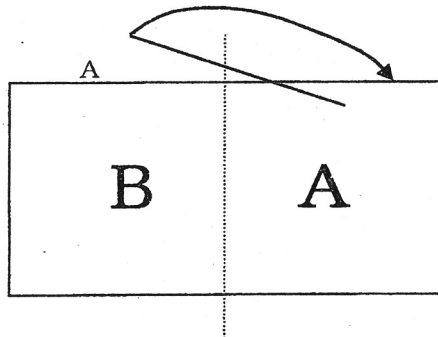
主審：ネットの垂直面を通過した瞬間に吹笛をする。

副審： //

ライン・ジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示す

② Aの選手がボールに触れたとき。

a : 許容空間外を通過してボールを取り戻したとき

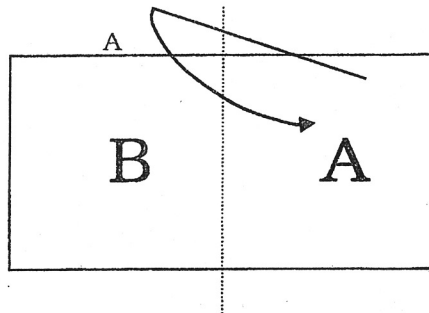


主審：吹笛をしないでラリーを続行する。

副審： //

ライン・ジャッジ：フラッグ・シグナルは示さない。

b : ボールが許容空間内を通過したとき。

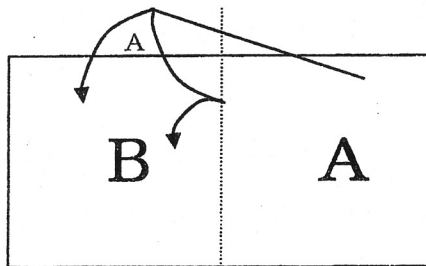


主審：ボールがネット上を完全に通過した瞬間に吹笛をする。

副審： //

ライン・ジャッジ：フラッグを振る。(一往復)

c : ボールがアンテナの内側のネットに触れたり、床に触れたとき。



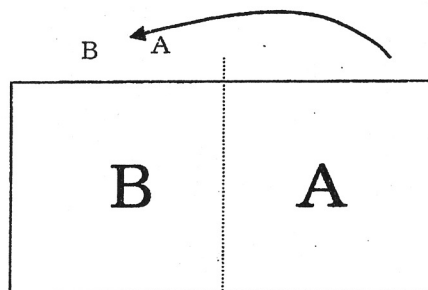
主審：ボールがネットに触れたり、床に触れた瞬間に吹笛をする。

副審：吹笛をしない。

ライン・ジャッジ：フラッグ・シグナルは示さない。

③ボールがアンテナの真上や外側を通過してBチームの選手に触れたとき。

a : Aチームの選手がボールを追いかけている場合、Bチームの選手のインターフェアとなる。

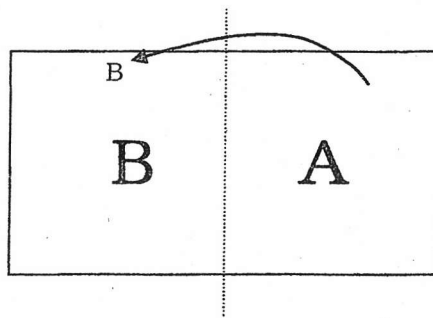


主審：Bチームの選手がボールに触れた瞬間に吹笛をする。

副審：吹笛をしない。

ライン・ジャッジ：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にフラッグを振る。
(一往復)

b : Aチームの選手がボールを追いかけていない場合



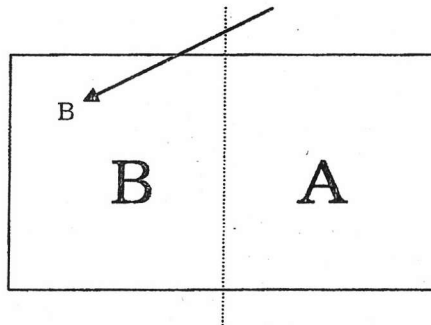
主審 : Bチームの選手がボールに触れた瞬間に吹笛をして、Aチームのアンテナ外通過でボール・アウト。

副審 :

//

ライン・ジャッジ : フラッグを振る。(一往復)

(2) Aチームのフリー・ゾーンから許容空間外 (アンテナ上方を含む) を通ってBチームのコートに向かっていく場合。



a : チームの1回目・2回目の接触後の場合

主審 : ボールが床に触れるか選手に触れた瞬間に吹笛をする。

副審 :

//

ライン・ジャッジ : ボールが床に触れるか選手に触れた瞬間にフラッグを振る。
(一往復)

b : チームの3回目の接触後の場合

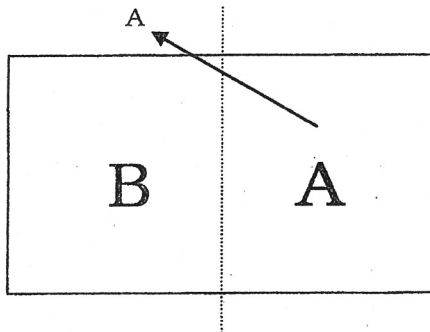
主審 : ネットの垂直面を通過した瞬間に吹笛をする。

副審 :

//

ライン・ジャッジ : ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を示すか、
場合によっては、フラッグを振る。

- (3) Aチームのコートから許容空間を通過してBチームのフリーゾーンに向かって行く場合。



a : Aチームの選手がボールに触れたとき。

主審：触れた瞬間に吹笛する。

副審： //

ライン・ジャッジ：触れた瞬間にそのコースのライン・ジャッジがフラッグを振る。(一往復)

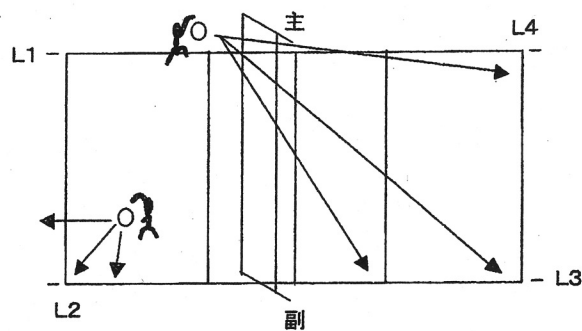
6. トレーニングマニュアル

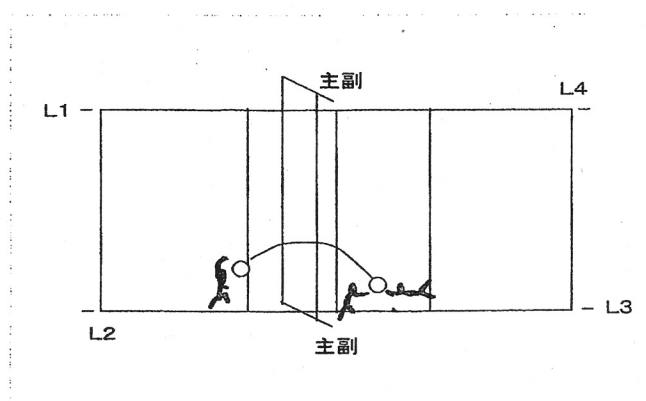
(1) レシーブ・ボールが床に触れたかどうか

- ① 主審・副審のアシストをしなければいけないので、低い姿勢でボールと床面との接点を見る。ボールが床面に触れた瞬間にフラッグシグナルを出す。
- ② タイミングが遅れ躊躇すると、選手のアピールのもとになるので十分注意すること。

★ライン判定

- a サイド・エンド・ライン にぎりぎりに打つ
- b コーナー(1M 以内) に打つ
- c 選手でボールが見えない時の判定



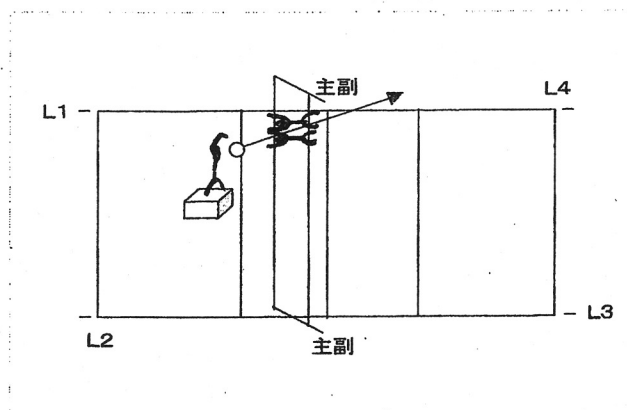


★床に落ちたボールの判定

- a フェイント・ボール・tip playをフライング・レシーブで手の甲でボールを上げる。
- b ブロック・カバーのプレイヤーの陰になってプレーが見えないケース。

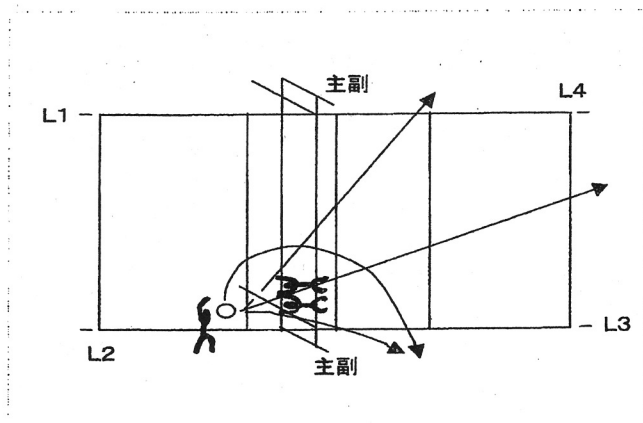
(2) ネット上の許容空間の外側を通過したボールを取り戻すケース

- ① ボールがアンテナに当たった場合
 - ・ 確認できたライン・ジャッジのみがシグナルを出す。
 - ・ ネット幅1mの間のアンテナに当たった時は、一番見やすい位置にいるライン・ジャッジが判定すべきである。
- ② スパイカーがボールをスパイクをして、ブロックにはねかえったボールが、そのスパイカーに当たった場合
 - ・ 特に主審側で起こるケースは、主審の死角になるケースが多いので担当のライン・ジャッジはしっかりと見ること。



- ★ボールがアンテナに当たるケース
- ★ブロッカーがアンテナに触れるケース

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b アンテナぎりぎりに打つ。
- c アンテナ外を通過するボールを取り戻すケース



- ★ アンテナ外通過ボールを色々な角度から取り戻す。
- ★ ボールの角度によって、どのラインジャッジがライン判定をおろすかにしないで、どのように動いたらいいいのかを確認する。

※ ラインジャッジの動きに十分注意すること。ボールのコースに入るために、極端に動いてライン判定がおろそかになったり、またコースに入らないで判定すると不信感をもたれるので動く範囲を十分に確認する必要がある。

※ 取り戻されたボールが許容空間内を通過した場合は、フラッグを左右に振る。

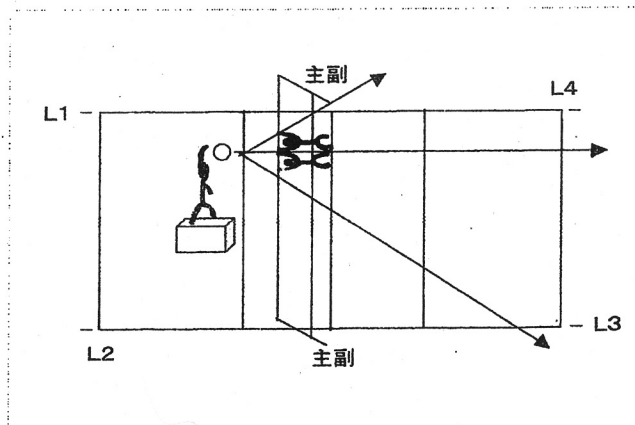
(3) ブロッカーとレシーバーのボール・コンタクトについて

① 特にブロッカーの上(指)をかすっていくケースや左右をかすっていくケースは、主審・副審からは非常に見にくいケースもあるので、原則的にはレシーブ側の2人のライン・ジャッジがフラッグ・シグナルを送る。しかし4人のラインジャッジが明らかにボール・コンタクトを確認できた場合は確認したライン・ジャッジはボール・コンタクトのフラッグ・シグナルを送る。

② アンテナ付近、特に副審側でのアタッカーが意識してタッチ・アウトを狙うプレーのブロックのボール・コンタクトはしっかりと見る。

★ブロッカーとレシーバーの ボール・コンタクト

- 台上よりスパイクを打つ。
- ボールがブロックの上をかすめる
ケースと左右をかするケース。
- ライン際のレシーバーのボール・
コンタクトも主審の死角になる
ケースがあるので、ライン判定も
十分注意しながら、視野に入れてみる
ことが大切である。



・ブロック：見えた全員(4人)

・レシーブコンタクト：レシーブ側+主審ライン(3人)

(・アウトフラッグとあるタイミング：打合せ、ポジションにある選手に合わせる)

・コート内外(サードスペース)：ラインジャッジ(2人)1往復

・パンチキ：コート内、2回コート外にヒット(仕草を2~3回)
コート外：ワンタッチがレガール

・向かって来るボール：上げない、送る。

・アンテナシグナル：アンテナを指し1往復

・判定と上げ=後に姿勢を上げる。

・No. 1.3 サバーから中央より、こちらから視野に入らないように下がる。

・審判台にボールが当たった場合は
おもむき旋回1往復

・No. 1.3 かわといものはイン、アウト(ワンタッチ
おぼえなくてよい)を出す。